

カメ捕獲のための好適な餌の検討

波連 圭佑・亀崎 直樹

700-0005 岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学生物地球学部

Examination of suitable baits for turtle capture

By Keisuke HAREN and Naoki KAMEZAKI

Department of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science, 1-1, Ridaicho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan

日本各地でカメの外来種の捕獲が盛んに行われている(有馬他, 2008など)。その中で、特にミシシッピアカミミガメ(以後、アカミミガメ)については、効率の良い捕獲法の開発が望まれている。その中で比較的効率の良い方法は、餌をいれたかご罟を用いる方法である(環境省, 2019)。カメを誘引捕獲する際の餌としては、従来、鮮魚が使用されていた。しかし、使用するのが気温の高い季節であることから、その餌の腐敗に苦勞する場合も多い。もし、腐敗しにくい他の安価なものがあれば、それを使用する方が望ましい。そこで、アカミミガメとクサガメが多く生息する池で、餌の種類によるカメの捕獲の違いを調べた。

方法

淡水ガメの捕獲にはカメ網と呼ばれるかご罟を使用した。カメ網の内部に餌を入れ1日目の朝に罟を仕掛け、2日目の朝に回収を行った。1度の調査で14種類の餌を使用し、それぞれの餌を3個ずつ用意し合計42個の罟を仕掛けた。餌の分量は50gとした。この調査を2度行い、各餌で捕獲した個体の種と種ごとの捕獲数、背甲長を記録した。使用した餌は、マイワシ、塩サバ、マサバ、煮干し、人工飼料(製造元:丸紅飼料)、サバの水煮(製造元:極洋)、ちくわ、魚肉ソーセージ(製造元:さくら水産)、コイの餌(製造元:日本ペットフード)、スルメ、スッポンマッシュ(製造元:伊藤忠飼料)、スッポンマッシュとさなぎ粉の混合物、ドックフード(製造元:ヒルズ)、セロリ、ワカメである。

調査地は岡山県赤磐市尾谷の山陽ふれあい公園内に位置する民潤池と呼ばれるため池で行った(図1)。民潤池の周囲を3つのエリアに分けて、それぞれのエリアに14種類の餌の入ったカメ網を設置した。民潤池ではハスが群生していたが、2010年頃から減少し始めた。その頃から民潤池ではアカミミガメなどの淡水ガメが多く確認され、ハス減少の原因としてはアカミミガメによる食害ではないかと考えられる。現在ではハスは消滅し、大量のアカミミガメやクサガメが生息している。ため池の周囲はコンクリートで固められた人工護岸となっている。



図1.調査対象地である岡山県赤磐市尾谷の山陽ふれあい公園内の民潤池

結果と考察

今回は2度の調査を行った結果、アカミミガメ217個体(70.7%), クサガメ90個体(29.3%)の合計307個体のカメが得られた。二度の調査であるから、餌1種類につき罠の数はそれぞれ6個である。それぞれの背甲長の平均(±標準偏差)はアカミミガメが 174.6 ± 28.9 mm, クサガメが 134.0 ± 28.9 mmだった。

餌別の捕獲数をCPT(Catch per trap)で種ごとに示した(図2)。CPTとは1網あたりの捕獲数を表している。最も高いCPTを示したのはマイワシでアカミミガメにおいて10.7を示した。次いで、塩サバ、煮干し、マサバとなり、この辺りが有力な誘引餌となる候補と考えられた。ここで塩サバの6.8、煮干し

の3.8は、保管の観点から望ましい。塩サバは生のマサバ3.7を上回る成績を出しており、もしこれがサバの質的なものが原因でないなら、塩サバや塩イワシなど塩蔵した魚がいいことになる。今回は塩イワシを試していないが、これを使えばより効果がでると期待される。また、煮干しも同じ観点から持ち運びに便利であり、煮干しが誘引餌として使えるならば都合がいい。

一方、クサガメではやや違った結果が得られた。マサバが最も高くCPTが3.2、それにマイワシ2.0、塩サバ1.8、スッポンマッシュ1.8と続き、塩サバがアカミミガメに比べて低かった。また、煮干しに至っては0.7と著しく低く、本種はあまり誘引されなかった。このように将来クサガメを捕獲するならば、魚の他にスッポンマッシュも考えられる餌である。

しかし、アカミミガメの餌は植物であることが分かっているが(Dreslik, 1999など)、それに全く誘引されなかったのは興味深い。セロリという質的な問題なのか、別の植物ならば誘引されるのかは今後の課題である。

謝辞

本研究は環境省から予算をいただき実施したものである(令和元年度環境省請負事業)。また、赤磐市役所には民潤池の調査の許可をいただいた。さらに、岡山理科大学生物地球学部動物自然史研究室の皆様には調査全般を手伝っていただいた。ここに感謝をいたしたい。

引用文献

- 有馬進・鈴木章弘・鄭紹輝・田中明・奥蘭稔・西村巖. 2008. ミシシッピーアカミミガメの食害調査と駆除. *Coastal Environment* 12:53-57.
- 環境省. 2019. アカミミガメ防除の手引き. 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室, 東京. 79p.
- Dreslik, M. J. 1999. Dietary notes on the red-eared slider (*Trachemys scripta*) and River cooter (*Pseudemys concinna*) from Southern Illinois. *Transactions of the Illinois State Academy of Science* 92(3/4): 233-241.

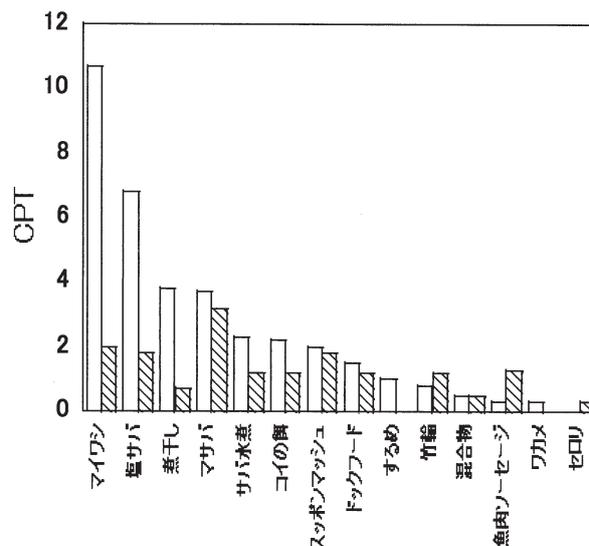


図2.民潤池の餌別のCPT(1網当たりの捕獲数)

□はミシシッピーアカミミガメ, ▨はクサガメを表す